

二宮町総合戦略評価について（意見）

「第 2 期二宮町総合戦略」に係る取り組みの令和 4 年度の進捗について、町行政の内部評価を踏まえ、二宮町政策評価委員会として評価を行いました。

9 本の施策については、概ね順調であると評価できます。特に施策 3-1、3-2 の子育て支援施策や施策 2-1 の魅力の創出と発信の施策は、実績値も高く本委員会としても高評価の意見が多く出ました。また、今後の人口減少社会等を見据えた新庁舎整備をはじめとする施設再編の推進や、地域コミュニティの時代に合った見直し、KPI の設定に対する課題などについても議論になりました。本委員会の意見を第 3 期二宮町総合戦略の推進や、計画改定の参考にするとともに、今後の地方創生の推進に役立てていただければと思います。

各委員からの様々な意見をもとに議論した中で、総論として主に 4 点について、意見を述べさせていただきます。

1 点目は、コンパクトシティやスマートシティを実現するための新庁舎整備事業についてです。地震対策や利便性等を考えると、喫緊の課題として取り組むべきものですが、ハード面のインフラ整備だけでなく、次世代を見据えたソフト面の整備も必要です。また、整備にあたっての用地取得に関しては、周辺住民への丁寧な説明に努めてください。

2 点目は、町有資産の有効活用についてです。依然として新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、ラディアン稼働率や図書館の年間貸出者数など実績が回復していることは高く評価できます。一方、東大果樹園跡地の活用は、利用状況が回復しつつあることは良い結果ですが、登録団体以外の町民による活用が進んでいないと思われるため、より町民から関心を持ってもらえるような取り組みと、イベントの参加人数など利用状況等が適切に把握できるような KPI を新たに設定する等の工夫が必要です。

3 点目は、地域社会の基盤である地域コミュニティについてです。地域コミュニティに関連する相談事業や預かり事業といった子育て支援施策は、その実績から順調に取り組みがなされていることが伺えます。一方、住民自治組織である自治会等においては、地域コミュニティが希薄化し、役員のなり手が不足する中、行事や役職を精査するなどの見直しが求められています。また、地域防災や支援を必要とする方の見守り体制の維持・発展のため、新しいシステムによる組織強化と伝統的なシステムの見直しを行政が支援する形で進めることも必要です。伝統的なコミュニティは、地域の

中での人間関係で運営されているため、改めてそのような活動への評価を行い、行政から自治会のあり方を見直すよう働きかけるとともに、コミュニティとしての役割を担う商店街等の活性化への支援や住民が積極的に企画の提案や地域コミュニティ活動への参加ができる環境づくりに努めてください。

4点目は、各施策における KPI についてです。設定を適宜見直すことは評価しますが、施策の進捗を的確に把握するため、さらなる指標の設定や将来の目指す形に基づいた再検討を行うこと、そして、目標値の根拠を明確化することが必要です。また、未達成となった KPI が存在する場合は、その原因と施策の執行内容を検証するよう努めてください。

最後に、本委員会の議論が、PDCA サイクルにおけるチェック機能として今後の総合戦略において有効に活用されるとともに、固定観念に捉われることなく、時代の潮流に柔軟に対応した持続可能なまちづくりの推進を期待します。